

## 市内文化財、史跡山中城跡維持管理事業

アナ： 「市長が語る 2022 三島」第 25 回の今日は、「市内文化財、  
史跡山中城跡維持管理事業」についてお話を伺います。  
豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 「文化財」といいますと、お寺や神社が真っ先に思い浮かびますが、  
三島市内の文化財にはどのようなものがあるのでしょうか。

市長： 三島市内の代表的な文化財としては、山中城跡や向山古墳群、三嶋大社の  
宝物（ほうもつ）や本殿などがございますが、これらは、国や県が高い価値を  
認めた遺跡や、国宝・重要文化財などに指定されている特に重要なものです。  
従来、文化財行政といいますと、こうした特別なものを保存することが  
中心でしたが、最近ではそれに加えて、活用ということも重視しております。

アナ： 文化財の活用ということですが、具体的にはどのようなことを  
するのでしょうか。

市長： 例えば、文化財が傷ついたり壊れたりしないような対策を講じた上で、博物館  
や美術館で展示を行い、皆様に鑑賞してもらうことや、市指定文化財の楽寿館を  
実際に使用して映画の撮影を行うこと、国の有形登録文化財の梅御殿でお茶会を  
開催することなどが挙げられます。

こうした文化財の活用を、観光振興やまちづくりにまで発展させたものが、  
日本遺産の取り組みでございます。

アナ： 世界遺産という言葉はよく聞きますが、日本遺産とは一体どのようなもの  
なのでしょうか。

市長： 日本遺産とは、地域の文化財や伝統文化・風習などをひとつの「ストーリー」  
にまとめて遺産として位置づけるものでして、文化庁によって認定と支援が  
行われています。

世界遺産は、文化財を保存することが目的の制度ですが、日本遺産は、  
関連する文化財の面的な整備、活用や発信によって、観光客の誘致や交通網の  
整備などを行い、地域の活性化とにぎわいの創出を図ることを目的としています。

三島市は、平成30年に函南町、神奈川県箱根町、小田原市と協力して  
日本遺産の申請を行い、「旅人たちの足跡残る悠久の石畳道一箱根八里で辿る  
遙かな江戸の旅路」で県内で初となる認定をいただきました。

小田原から三島まで箱根八里を歩けば、石畳や一里塚、甘酒茶屋、箱根関所、  
山中城跡、三嶋大社などが次々と現れ、江戸時代の旅を追体験できるという内容  
です。

文化財を楽しむだけでなく、小田原のかまぼこやういろ、三島のうなぎなど

「食」を楽しんだり、箱根の温泉や三島スカイウォーク、伊豆フルーツパークといった新しい観光施設を組み合わせるといった楽しみ方もあります。

アナ： 食や温泉、観光施設と組み合わせることによって、さらに魅力を高め、観光客を増やしていこうということですね。

市長： より多くの方にお越しいただくため、アフターコロナを見越して、英語で案内できる日本遺産ガイドの育成も行っています。

アナ： ところで、先ほどお話に出てきました山中城跡ですが、昨年の大雨で一部被害を受けたと聞きました。

市長： 令和元年10月の台風で、障子堀という遺跡の一部が崩れるなどの被害を受けまして修復しておりましたが、昨年7月の大雨で同じ箇所の一部が再度被害を受けました。

そこで今年は、このような被害を未然に防ぐ排水施設を新たに整備するための測量と設計を行うとともに、修復工事については、災害により強い工法に切り替えて進めております。

アナ： 文化財を維持管理していくのは、本当に大変なことですね。

市長： 今回の工事につきましては、文化庁と静岡県から補助金をいただくことができましたので、それを活用して確実に復旧していきたいと考えております。

また、山中城跡の維持管理費の一部に充てるため、今年も、自治体が特定の目的のために寄附を募る「ガバメントクラウドファンディング」を実施する予定です。

文化財を守り、次の世代に伝えていくためには、皆様のご理解とご支援をいただくことが大変重要となりますので、ご協力をいただけますと幸いです。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。